

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】



1. 負傷事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット事例
2. 体験した事例の名称	消火活動中、古井戸へ転落しかかった。
3. 体験した事例の中心的要素	木造一般住宅建物火災における消火活動で残火処理中、物置部屋へ進入した際、床板が抜け、床下にあった古井戸（直径1 m、深さ約10 m、水深約3 m）へ落下しそうになった。床板が抜け落下し始めた時、幸いにも空気呼吸器の保護枠が井戸の縁に掛かり、両手を井戸の縁に掛け身体を保持できたため転落をまぬがれた。
4. 体験した事例の原因・理由	火災現場到着時、家人は外出中で関係者が居らず、情報を得られなかった。また、物置部屋の板張りの床下に古井戸があるとは予想できなかった。

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 18年 4月 15日 午後 5 時頃
2. 発生した当時の天候	曇
3. 発生した活動現場	屋内：住宅と同じ棟の中の物置部屋で床は前面板張りであった。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 負傷事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	死亡していた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、
7. 事例体験時の活動	火災、木造建物 [その他：火勢鎮圧後]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	残火整理、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・ 活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・ 活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・ 活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・ 体調が悪かった。	いいえ
・ 悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・ 装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・ 装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・ 装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・ 必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・ 障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・ 特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・ 狭隘な場所であった。	はい
・ 暑かった（寒かった）。	いいえ
・ 野次馬が多かった。	いいえ
・ 現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・ 足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・ 足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・ 活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・ 指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・ 指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

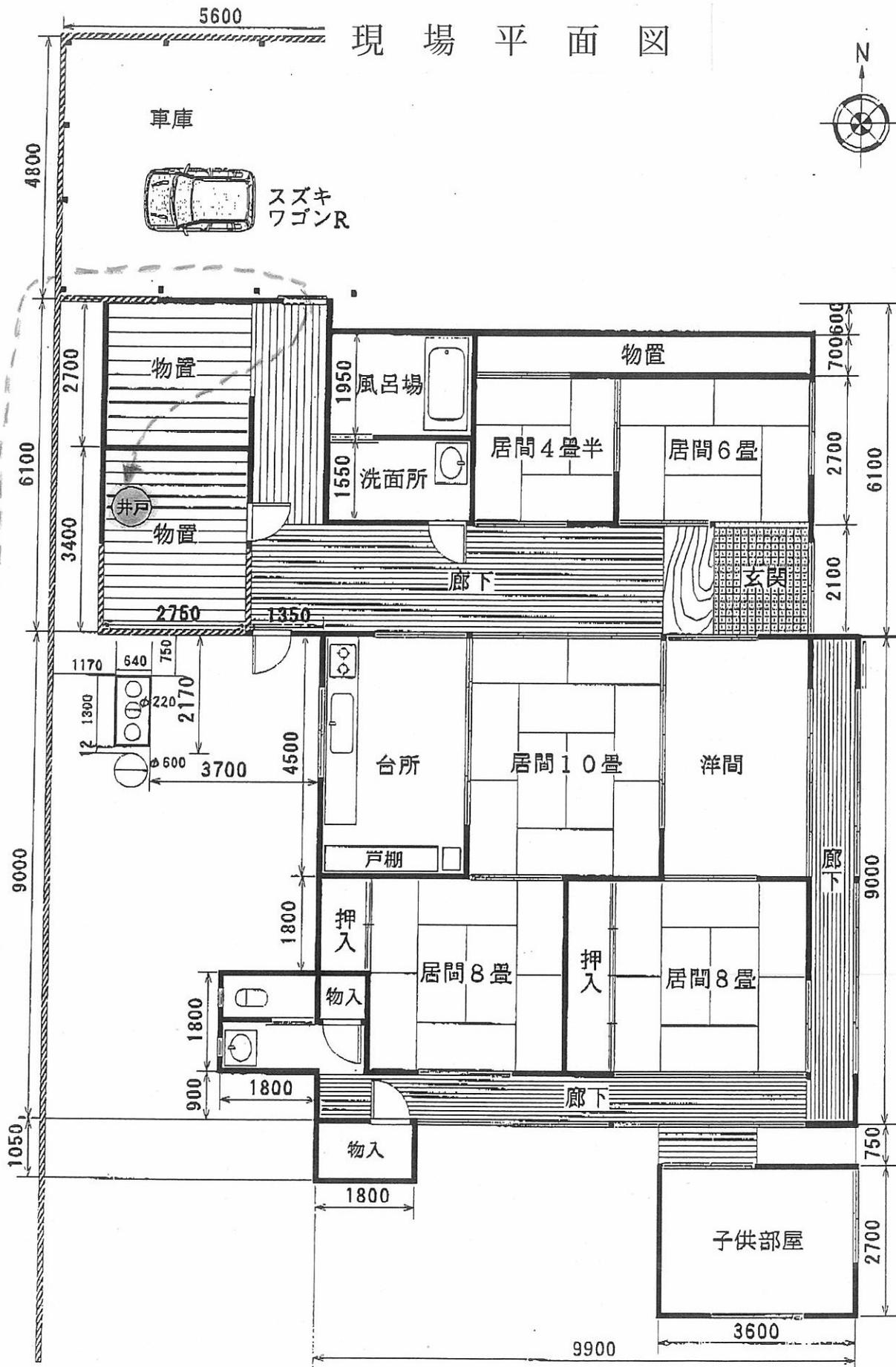
・ 隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・ 隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：住宅の一部である物置部屋の板張りの床下に古井戸があるとは思わなかった。
--

現場平面図



縮尺	1/100
単位	ミリメートル

・発生日時：平成18年4月 午後5時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	備考
		車長／消防司令 ・年齢 55 歳 ・勤続 35 年 ・現場 35 年 ・同様の活動:一年に数度	不明	
				火災現場到着時、家人は外出中で関係者が居らず、情報を得られなかった。 救助隊員1名が活動支援 物置部屋の板張りの床下に古井戸があるとは予想できなかった。 幸いにも空気呼吸器の保護枠が古井戸の縁に掛かった

◎ヒヤリハットが起きたのはどうしてだと思うか？また、どうして負傷事故に至らなかったか

- 直接的な原因：情報入力に問題があった。
- ・体力、反射神経等身体能力が優れていた。
- ・集中力、注意力があった。
- ・避難・退避がうまくいった。
- ・周囲の視界が確保できていた。
- ・たまたま、負傷事故にならなかった。
- ・その他：空気呼吸器の装着が確実だったので、一瞬だが保護枠が身体を支えた。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (心理・体調について)
 - ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
- (活動環境について)
 - ・狭隘な場所であった。
 - ・足元の強度が不足していた。
- (その他)
 - ・住宅の一部である物置部屋の板張りの床下に古井戸があるとは思わなかった。